

「障害のある子ども達へのサービス」

—すべての子ども達に絵本の楽しさを伝えたい—

小西萬知子

I はじめに

① 子どもは絵本がすきです。絵本は、子どもが最初に出会う本です。

ほとんどの子どもは絵本を読んでもらうのが好きです。本は無限の可能性と知恵をもたらします。人生のいろいろなシーンで本を友として豊かに過ごして欲しい。

② 絵本は読んでもらうものです。

子どもの心に、読んであげる人の肌のぬくもりを通して良いもの、暖かい心、深い愛情が流れ込みます。このときに得た楽しさが、その後の読書に大きく影響を与えられます。

③ 絵本とは

i 知識を与え想像力の働きを支えます。外国のお話や昔話など直接接したことの無い事柄を映像化するのを助けます。

ii 遊びの一つと思ってください。字を覚えさせるためなどに使わないでください。

iii 読んでくれる人がいないと、子どもは絵本を知らないで大きくなってしまいます。

iv 赤ちゃんから絵本を楽しめます。赤ちゃんへの読み聞かせも大切です。

II 障害のある子どもにも絵本を

視覚・聴覚・肢体不自由・知的障害・その他の障害・病児・施設入所児童などさまざまな困難な状況にある子どもたちは、絵本を読んでもらう機会が少なくなりがちです。しかし、健常の子ども以上に大切なのです。

「本は友だち」のなかで、トーディス・ウーリアセーターが言っているように「だれにもまして必要なのは障害をもつ子どもたちなのです。」彼女の言葉をそのまま伝えますと「障害をもつ子というと、私たちは、何か特別な子どものように考えがちです。しかし、障害をもつ子どもも、何よりもまず、あたりまえのひとりの子どもののです。そして、すべての子どもが、本を必要としています。だれにもまして必要なのは障害をもつ子どもたちなのです。」（「本は友だち」トーディス・ウーリアセーター 偕成社 1989）

① 障害に応じた、楽しめる資料で、一人ひとりにあった読みきかせが大切です。

視覚障害児への資料・・・さわる絵本・点訳絵本

視覚障害以外の障害児（聴覚・肢体不自由・知的障害・病児・施設入所児童）への資料
手話付き絵本・布の絵本・字幕つきビデオ・音の出る絵本・布のおもちゃなど

② 重複の障害を持つ場合があります。

いろいろな素材の絵本を組み合わせ、興味のあるものから始めます。

III さわる絵本とは

視覚障害児と視覚障害の親のための絵本で、市販の絵本を見えない子や親が楽しめるように工夫（さわる絵本化）したものです。

子ども達が必ず読んでもらうような、絵本の中から選んでさわる絵本化しています。

これには、見えない子だけにわかる絵本ではなく、見える子と一緒に見ることができ、お話ができるという願いも込めて作っています。

① さわる絵本のはじまり

見えない子を持つお母さんが、たまたま絵本に手袋を貼って見たら、子どもが非常に喜びももっともとせがまれ、工夫して、子どもにも教えられながら作って出来たものです。

② 大阪での製作

見えない末っ子が、姉の読んでもらっている絵本に手を伸ばし、触ってくる様子を見ていて、姉と同じように絵本を楽しめるよう工夫できないものかと思ったお母さんと一緒につくり始めました。それがつみきの会です。彼女が3歳のときから、出来上がる作品を楽しみにしてくれ、次第にいろいろ注文を付けてくれました。私たちは、彼女の意見を参考にしてつくってきました。そして、今のような形になりました。

さわる絵本は、市販のたくさん子ども達に愛されている絵本を、さわる絵本化しています。そのために出版社や著者に許諾を得てから材料を集めます。1冊つくるのに、ほぼ半年から1年かかります。

IV さわる絵本・点訳絵本・布の絵本の違い 実物で説明いたします。

V さわる絵本を必要な人に届けよう

① 見えない子どもに

さわることへの興味・大切さ・楽しさ、絵本の楽しさ、見える世界の描き方の理解、形の理解、自分で出来ること、友達や兄弟にしてあげられること、晴眼児童と共通の話題

徳島県立盲学校で 写真を見ていただきます。高校生も楽しんでます。

香川県立盲学校で 2回の読み聞かせ会を実施しました。その後、大阪の図書館から借りて、定期的に利用されています。

宮城県の保育園で 先生からさわる絵本を読んでいる子どもの様子を伺いました。

大阪市の保育園で 保育士の先生が私のホームページでさわる絵本を見つけられました。

② 見えない親に

親子で、受け答えの出来ることの大切さ、会話の発展、子育ての楽しさなどを、体験していただいています。

2歳の晴眼児を子育て中のおかあさんから戴いた感想を紹介します。

VI さいごに

まだまだ、知らない方が多く、保育園で、見えないお母さんが「子どもに絵本を読んであげられないので、とてもつらい」と相談されたのに、さわる絵本を知らなかったのに、何も助言できなくて、自分もつらい思いをしました。とおっしゃる保育士さんのお話を聞いたことがあります。さわる絵本を子ども達はとても楽しんでくれることを、一人でも多くの方に知ってほしい、さわる絵本を必要とする子どもや大人に届けたいと願っています。

昨年2月9日から16日まで大阪の枚方市立中央図書館で展示会を開催していただきました。延べ897人さわっていただきました。

宮城県や、香川県の利用のように、全国の見えない子どもにもさわる絵本が届くように、皆様にご協力をお願いしたいと思います。

☆参考資料

① 見えないお母さん絵本を読む 岩田美津子 せせらぎ出版 1994

② 子供の権利と読む自由 日本図書館協会 1994

③ 本は友だち トーディス・ウーリアセーター 偕成社 1989

④ クシュラの奇跡-140冊の絵本との日々 ドロシー・バトラー のら社 1984

⑤ かしこく、やさしく、たくましく 新井竹子・橋詰純子編 白石書店 1985

⑥ だれのための図書館 ホイットニー・ノース、エリザベス・レイン 日本図書館協会 1982